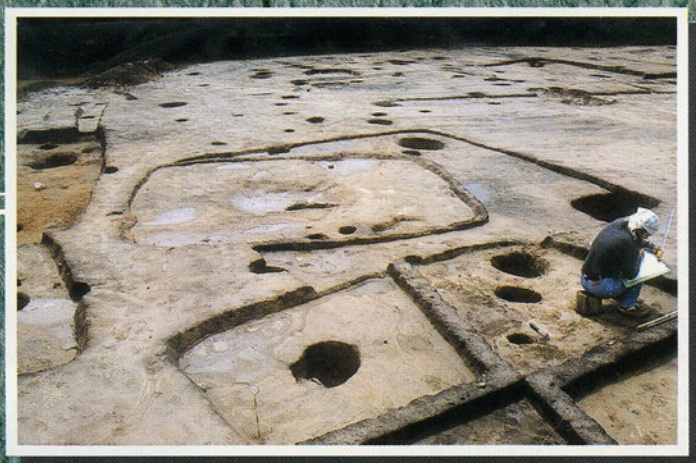


速報展

発掘された鈴鹿1999



2000.3.4~2000.5.14



鈴鹿市考古博物館
Suzuka Municipal Museum of Archaeology

国分町 伊勢国分寺跡(22次)

Ise-Kokubunji Temple Site

鈴鹿市国分町字堂跡 調査原因：史跡整備

調査期間：7月15日～9月30日

伊勢国分寺跡は、大正11年に国史跡に指定されました。鈴鹿市教育委員会が昭和63年から平成2年にかけて実施した範囲確認調査によって、東西178m、南北184mの築地に囲まれた伽藍地の範囲が明らかになっています。そして、平成7～9年度に史跡整備に向けた公有地化が完了しています。



瓦・塼列

今回の調査はいよいよ国分寺の伽藍配置を明確にするため新たに実施されるものです。古くから堂跡と呼ばれ史跡石柱などが立てられている講堂の可能性が高い場所に調査区を設置し、建物の幅を確認するため推定地の東・西にトレンチ(試掘溝)を入れました。

発掘の結果、西側のトレンチでは南北に並んだ瓦と「塼」と呼ばれる煉瓦がみつかりました。

これは建物の基礎となる土壇(基壇)を装飾する基壇化粧の最下段の地覆にあたるものとみられます。

瓦列の内側は版築と呼ばれる40～50cmほど掘り下げて再び土を層状に重ね突き固める土壌改良(基礎地形)の痕跡が明瞭に残っていました。さらに下層には古墳時代後半頃の竪穴住居の痕跡がみられます。

基壇の外側には瓦や炭の詰まった溝状の落ち込みが2条みつかりました。度重なる改修工事などに伴う作業や廃棄物処理のためのものと考えられています。

東側のトレンチは攪乱が著しかったのですが、かろうじて基壇の基礎地形の東端が確認できました。このことにより講堂と推定される基壇の東西幅はおよそ33mと国分寺としても大規模なものであったことがわかりました。



調査区全景



基礎地形版築



唐草文軒平瓦



台形塼

広瀬町 伊勢国府跡(11次)

Ise-Kokufu Site

鈴鹿市広瀬町字矢下 調査原因：学術調査

調査期間：10月1日～2000年1月31日

広瀬町の長者屋敷遺跡は古くから瓦の出土が知られ、矢下長者の伝説も伝えられています。遺跡の性格については国府、軍団、寺院など様々な推定がなされて来ました。平成5年の発掘調査により、滋賀県大津市の近江国府政庁と同

じ配置を持つ建物基壇が確認され、奈良時代後半頃の伊勢国府であることが確実になりました。

今回の調査は伊勢国府政庁の最終的な範囲確認を目的とするものです。政庁の周辺3ヶ所に調査区を設定しました。

第1の調査区は政庁の東約50mの地点です。政庁にともなう曹司などの建物が存在するかどうかを確認するための調査でしたが、耕作等による削平が著しく政庁の背後(北側)を区画する溝が東へ直線的に伸びていることを確認すると



第1調査区

どまりました。

第2の調査区は政庁の南西に隣接する地点です。政庁築地の外溝に隣接して桁行き20m以上の大型礎石瓦葺建物の基礎地形の跡がみつかりました。政庁を取り巻く官舎にも瓦葺きの建物が使われていたようです。その性格は不明ですが、他の国府の調査例を見ても政庁や国司館以外の官舎はほとんどが掘立柱建物であり、瓦葺き建物が採用されている例はありません。大国伊勢の国府の面目躍如たるものがあります。

第3の調査区は政庁南門の推定地に設定されました。全体の調査はできませんでしたが、南門の北半部の基礎地形が確認されました。基礎地形の北辺に重なるように5ヶ所の足場穴が検出され、その間隔から柱間12・15・12尺の八脚門と復元できます。その規模は国府としては最大規模といえます。



政庁築地外溝



重圓文軒丸瓦



政庁南門跡

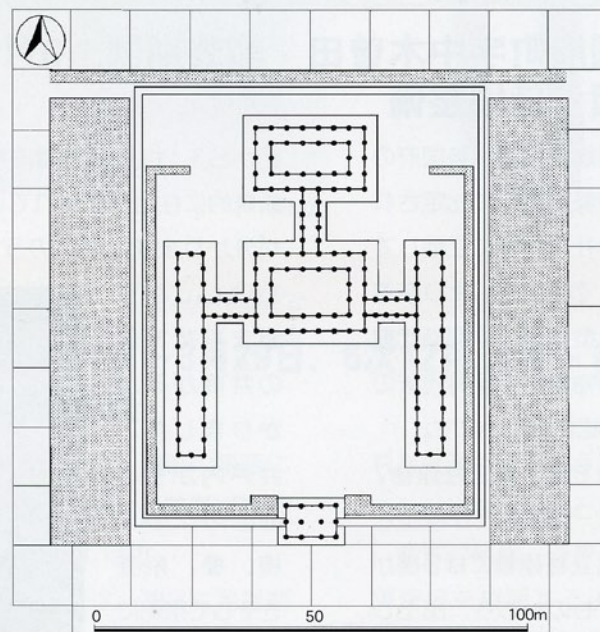


押印瓦

この南門の確認により伊勢国府跡政庁の範囲がほぼ確定し、今後の史跡指定や整備への大きなステップとなりそうです。



重廊文軒平瓦 (朱が付着)



伊勢国府政庁復元図 (1:1,500)

国府町 天王山西遺跡 Tennoyama-nishi Site

鈴鹿市国府町字中木曾田 調査期間：1月18日～2月26日、5月6日～8月31日
調査原因：ほ場整備



1次調査区全景

国府町はその地名から古くより伊勢国府の推定地とされてきました。すでに広瀬町の長者屋敷遺跡が奈良時代後半頃の伊勢国府跡であると確認されてしまいましたが、こちらは平安時代以降移転してきた第二次国府である可能性が残されています。

天王山西遺跡は推定国府域の東端、丘陵の裾に所在します。2次

にわたる調査の結果、掘立柱建物17棟、井戸5基、多数の溝・土坑が検出されました。これらの建物の年代は周囲から出土する土器などから10～11世紀頃のものとして推定されています。建物にはそれ

ほど大型のものはありませんが、^{ひさし}底構造を持つものがあつたり、方位をそろえて建てられたものもあります。また、^{りよくゆうとうき}緑釉陶器などの出土もみられます。そのため、一般的な農村とも考えがたく、国府に出入りしていた人物が居住した集落とみられます。



2次調査区全景

国府町 三宅神社遺跡(5次) Miyake-jinja Site

鈴鹿市国府町字中木曾田 調査期間：9月9日～2000年1月5日
調査原因：ほ場整備

三宅神社遺跡は推定伊勢国府の中心近く、伊勢国総社に比定されている三宅神社の^{そうじや}一帯に立地しています。今までの調査により奈良時代前半の大型井戸、平安時代前期の掘立柱建物群、平安時代末の井戸などが確認されています。

今回の調査では、掘立柱建物7棟、井戸7基、土坑などが検出されました。掘立柱建物には3棟が重複しているものがあり、出土した須恵器、土師器、^{はいゆうとうき}灰釉陶器、緑釉陶器、山茶碗などからみて8世

紀から11世紀の長期にわたって断続的に住居が営まれていたことが分かります。井戸のうち3基からはしっかり組まれた方形の井筒がみつかりました。井戸内からは^{まげもの}曲物や片口鉢、^{かたくち}椀、櫛、糸巻きそして祭祀に使われた齋串などの木製品

のほか大量の土器に混じて^{ぼくしよ}墨書土器、^{えんめんけん}円面硯などが出土しました。また裏込めから広瀬町の国府跡



調査区全景



掘立柱建物



井戸実測作業

考えるにはやや貧弱であるようです。しかし、国府瓦の転用、硯や墨書土器など文字に関連する遺物、齋串という律令的な

祭祀を持ち込んでいる点などから国府との関連の強さがうかがえます。例えば国府の下級職員あるいは郡司クラスといった有力な人物の居宅なのでしょうか。

(長者屋敷遺跡)と同じ押印瓦など瓦類が出土しています。墨書土器は井戸のほかにも土坑や窪地の土器だまりからも出土しています。鈴鹿市には官衙かんがや寺院遺跡が多いに

もかかわらず墨書土器がまとまって出土するのは珍しいことです。

遺跡の性格については、建物の規模や企画性といった点で、期待された国府を構成する曹司や館たちと



井戸内遺物出土状況



井戸内齋串出土状況



墨書土器



押印瓦



齋串

岸岡町 天王遺跡(5・6次) Tenno Site

鈴鹿市岸岡町字天王 調査期間：5次1月7日～3月29日、6次12月14日～12月23日
調査原因：5次宅地造成 6次病院改築

天王遺跡は、鈴鹿川右岸に広がる低位段丘が最も海岸近くに張り出した地点に立地します。遺跡内では、すでに4次にわたる発掘調査が実施され、弥生時代から鎌倉時代にわたる様々な遺構が検出さ

れています。また、遺跡の南西には白鳳寺院と推定される天皇屋敷遺跡が立地しています。

第5次の調査は、第3次発掘調査区のすぐ南に隣接しています。その際、調査区の南東隅で検出さ

れた大溝がどのように延びているのかが注目されるどころでした。

調査の結果、予想どおり大溝が調査区を縦断するように延長約100mの長さでみつけられました。幅は最大で4m深さ1.2mを測

ります。この一帯は後世に水田化するために全面が旧地表から0.5～1mほど掘り下げられていますから、本来の溝はさらに深く、広い物であったことでしょう。溝は南南西に向かって約45m伸びた後、135°折れて南南東へ50m以上伸びています。溝の底の両端には護岸の杭を打ち込んだとみられる跡の小ピットが並んでいました。溝内からは6世紀後半頃の須恵器が多く出土し、古墳時代後期には開削されていたものとみられます。また、溝の上層には7世紀後半から8世紀頃の層があり、再掘削されて利用されていたことが



調査区全景



大溝

分かります。この他には痕跡状の掘立柱建物2棟、竪穴住居1棟がみつっています。

大溝は、遺跡が立地する低位段丘を横断して金沢川と田古知川を結ぶ運河の役割をしていたものでしょうか、あるいは

大きく方形に回って岸岡山に古墳を築いた豪族の居館を巡る堀となる可能性も残されています。

第6次調査区は病院内のためごく限られた面積でしたが、遺構の残りはよく、大型の掘立柱建物と掘立柱倉庫各1棟がみつかりました。7世紀後半頃のものです。おそらく、第5次調査調査区の大溝付近も本来はたくさんの建物が建ち並んでいたことでしょう。

津賀町 居敷遺跡(2次) Ishiki Site

鈴鹿市津賀町字居敷 調査期間：3月10日～7月5日
調査原因：道路改良

居敷遺跡は鈴鹿川左岸の台地上に所在します。台地の先端部はすでに三重県埋蔵文化財センターにより発掘調査され、縄文時代晩期から戦国時代にかけての長期にわ



竪穴住居

たる遺構と遺物が確認されています。今回の調査では、古墳時代前期の竪穴住居6棟と多数の土坑、平安時代の掘立柱建物3棟がみつかりました。竪穴住居はいずれも正方形で東よりの隅に円形の貯蔵穴とみられる土坑を持

っています。竪穴住居外で見つかった土坑もほぼこれに同形・同大のものがあるのでこれも竪穴住居



調査区全景

に付属する貯蔵穴と見れば、さらに多くの竪穴住居が存在したことが予想できます。

国府町 保子里遺跡(2・3次) Hokori Site

鈴鹿市国府町字保子里

調査期間：2次2月15日～6月30日、3次9月13日～10月8日

調査原因：病院建設

保子里遺跡は、鈴鹿川右岸の高位段丘の縁辺に所在します。遺跡の南側には、垂飾付耳飾、単龍環頭大刀・五獣鏡や承台付甕等の出土と双円墳という珍しい墳形で有名な保子里1号墳(車塚)を含む保子里古墳群と、3基の前方後円を含みかっは100基近々の古墳が存在したといわれる西ノ野古墳群が分布するなど、鈴鹿市内の古墳分布の中心地に立地する遺跡です。

第2次の調査は、建物の建設計画に合わせていくつかの調査区に分割して実施されました。北に向けて半島状に張り出す台地の先端から第2、第1、第3、第4調査区の順に配置されています。

第2調査区は以前の駐車場造成の際に攪乱をうけたようで遺構の残りは悪かったのですが、縄文時代のもつとみられる円形の竪穴住居1棟が検出されています。

第1調査区では、弥生時代中期の方形周溝墓4基、竪穴住居2棟、古墳時代の竪穴住居17棟が検出されました。遺構はみつかりませんが、風倒木痕などから縄文時代中期の土器もまとまって出土しています。方形周溝墓の周溝か



第1調査区(中央奥に保子里1号墳)

らは供えられたとみられる壺が多数、良好な状態で出土しました。

第3調査区からは古墳時代の竪穴住居4棟が検出されました。

第4調査区は保子里1号墳から100m程しか離れていない地点です。比較的遺構の残りがよく、調査区全域から43棟もの古墳時代竪穴住居が検出されました。検出された竪穴住居は複雑に重なり合っていて、何度も建て替えが行われたことを示しています。

第3次調査(第5区)は、工事計画変更に伴うもので第3区に隣接して実施しました。古墳時代竪穴住居6棟と縄文時代遺物を含む風倒木痕がみつかりました。

保子里遺跡では、縄文中～晩期、弥生中期、古墳時代の長期にわたり集落が営まれ、この地が生活の



第4調査区全景



弥生土器壺



適地であったことが伺えます。特に、古墳時代前期から後期までほとんどとぎれることなく建て続けられた竪穴住居は、保子里・西ノ野古墳群が築かれ古墳時代におけ

る鈴鹿川流域の中心とみられていたこの地域で、ようやくそれにふさわしい拠点的な集落が発見されたと言ってよいでしょう。おそらく保子里遺跡の付近には鈴鹿川流

域の盟主の居館も存在したはずで。また、大量に出土した土師器などの土器の整理が進めば北勢地方の古墳研究の上で基準となるような資料となりそうです。



縄文時代竪穴住居



古墳時代竪穴住居

津賀町 津賀平遺跡 Tsugadaira Site

鈴鹿市津賀町字地ノ坪 調査期間：7月12日～10月16日
調査原因：道路改良

津賀平遺跡の調査は今回で第4次になります。遺跡の範囲は広大で、現在までの調査により古墳時代前期集落、古墳、平安後期集落、中世集落などが複合していることが確認されています。今回は道路拡張に伴うもので調査区が幅1m

ほどのトレンチ状のため検出された遺構も古墳時代前期竪穴住居とみられる土坑1基、中世の溝・土坑各1基にとどまりました。遺跡の広がりが台地の奥、津賀集落の付近まで広がっている可能性を示すものです。



調査風景

国府町 西ノ野11号墳 Nishinono No.11 Tumulus

鈴鹿市国府町字坂下 調査期間：10月28日～11月9日
調査原因：住宅建築

西ノ野11号墳は、鈴鹿川右岸の高位段丘上に分布し、鈴鹿川流域の盟主墳とみられる王塚や5号墳をふくむ西ノ野古墳群内では最

も奥部に立地しています。測量調査が実施されていないので正確な規模は不明ですが、全長50mに達する前方後円墳とみられます。通称「椀塚」とよばれ椀貸し伝説が伝えられています。ほぼ同じ大きさでどちらが後円墳が分からないような墳丘から、比較的新しい6世紀代の築造でないかと推定されています。調査区は墳丘の南東に隣接して設定しました。調査の結

果、深さはごく浅いものの最大幅6mを測る溝がみつかりました。溝からは須恵器甕片が数点出土したのみで年代決定の手がかりは得られませんでした。発見された溝が古墳の周溝とすれば、直線的であるため、前方後方墳または前方後円墳の前方部の可能性が考えられます。また、現在残っている墳丘から離れているため、本来の古墳の規模はさらに大きかったとみられます。



周溝

石薬師町 石薬師東古墳群(11・13次) *Ishiyakushi-higashi Tumuli*

鈴鹿市石薬師町字寺東

調査期間：11次4月21日～5月7日、13次12月20日～2000年1月20日

調査原因：11次福祉施設建設、13次道路改良

調査地は三重県消防学校の東側に位置します。福祉施設建設に先立つ発掘調査です。石薬師東遺跡・古墳群は消防学校の改築や市道の拡幅等によりたびたび調査が実施され、今までに60基あまりの古墳が確認されました。11次では建

物の基礎に当たる部分で2基の小方墳83・84号墳が検出されました。83号墳は一辺9mの方墳で、墳丘は削平され周溝のみが検出されました。周溝の西辺は土坑状に深く掘り込まれ須恵器はそう、壺、坏が原位置を保って出土して、祭祀の跡とみられます。北辺からもま

が出土しています。築造は6世紀前半から中葉にかけてとみられます。もう1基は部分的な検出でしたが同規模の方墳とみられます。

道路改良に伴う13次調査は幅約0.5mのトレンチ状の調査区です。ここでも古墳の周溝と考えられる溝が埴輪片を伴い確認され、88号墳から91号と命名しました。



調査区全景



出土遺物実測



須恵器 はそう・短頸壺

国分町 国分北遺跡 *Kokubu-kita Site*

鈴鹿市国分町字西ノ岡 調査期間：10月12日～2000年1月20日

調査原因：道路建設

調査主体 三重県埋蔵文化財センター

調査地点は伊勢国分寺跡の北東600m、内部川から入り込んできた谷に面した地点に所在します。調査の結果、みつかったのは掘立柱建物1棟のみでした。国分寺の瓦が持ち込まれているため奈良時

代後半以降とみられます。鈴鹿川から離れた台地の奥でも集落が広

がっていたことが確認されました。



掘立柱建物



調査区全景

石薬師町 石薬師東古墳群(12次) *Ishiyakushi-higashi Tumuli*

鈴鹿市石薬師町字寺東 調査期間：4月30日～6月30日

調査原因：防災拠点施設建設

調査主体 三重県埋蔵文化財センター

調査区は、古墳群の推定分布域の北西端に位置します。調査の結果、石薬師東古墳群のほかの古墳同様に墳丘を失い周溝のみになっ

た古墳が3基発見され、85～87号墳と命名されました。墳形はいずれも方墳で、86号墳は一辺8×8m、87号墳は5×6mと小型です。

87号墳の周溝からは土師器の高坏が意図的に割られた状態で出土しています。年代はいずれも5世紀後半から6世紀前半とみられます。



調査区全景



87号墳周溝

広瀬町 北蟻越遺跡 *Kita-arikoshi Site*

鈴鹿市津賀町字南山 調査期間：7月12日～10月1日

調査原因：道路建設

調査主体 三重県埋蔵文化財センター

鈴鹿川左岸の台地上に立地する遺跡です。発掘調査の結果みつかったのは、開墾によって破壊され盛り土を失い、周りに巡らせた溝のみとなった古墳の痕跡でした。古い記録にはこのあたりには20基以上の古墳が分布していたとさ

れ津賀古墳群とも呼ばれていますので、今回みつかったのはその一部でしょう。古墳の痕跡は7箇所見つかりました。最大のは円墳で直径15mを測ります。それ以外はいずれも方墳で一辺が10m以下の小型のものです。うち周

溝4とされるものは溝の一部が掘り直されて二重になっていて、その部分から鉄製鍬先がみつかりました。周溝3からは須恵器の壺や土師器の高坏・壺が出土しました。5世紀中頃から築造が始まったようです。

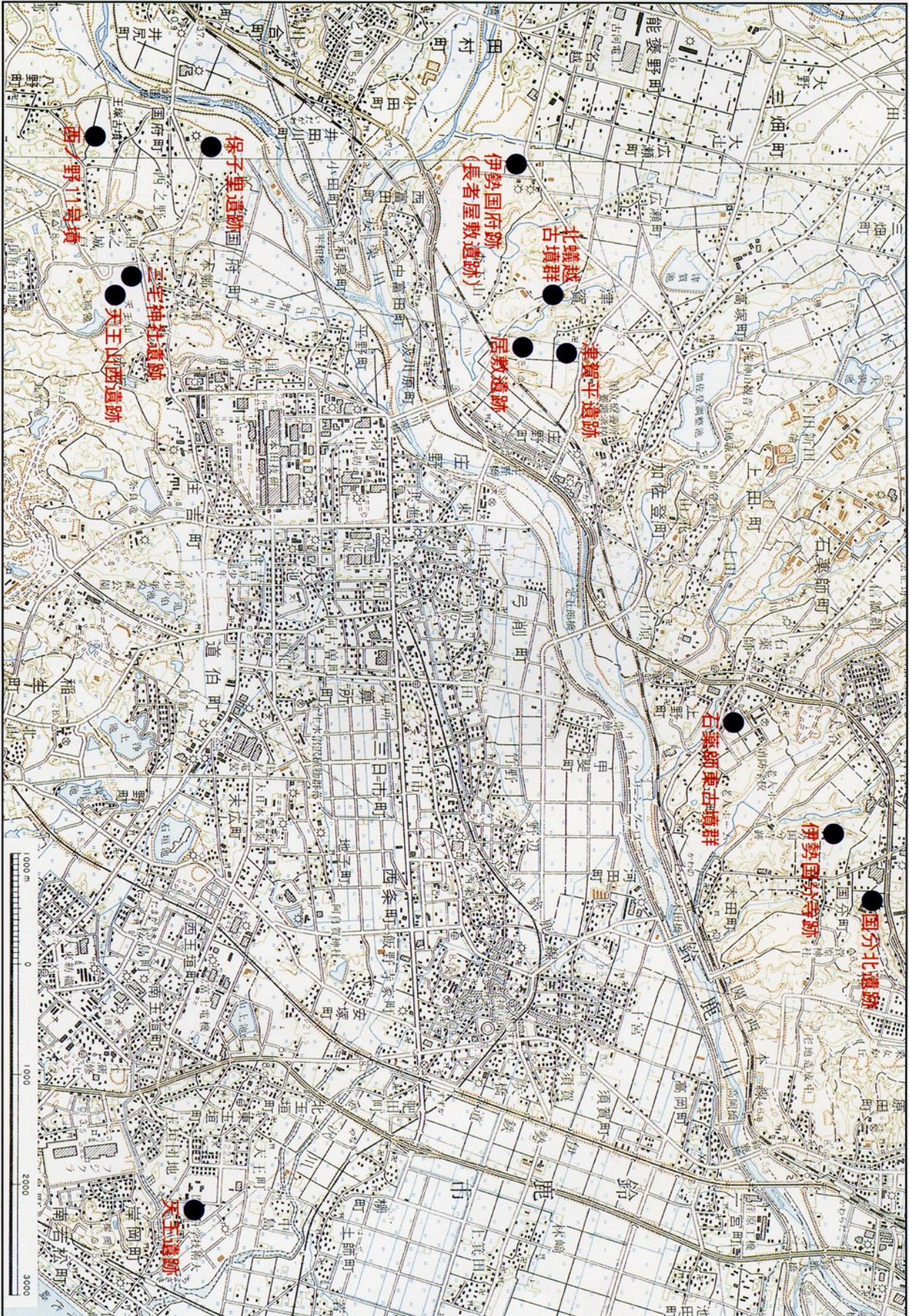


調査区全景



周溝2

資料提供・協力 三重県埋蔵文化財センター



調査遺跡位置図(1:50,000)



編集・発行 鈴鹿市考古博物館
三重県鈴鹿市国分町224 TEL0593-74-1994
E-mail:kouko@city.suzuka.mie.jp